

アルコール依存症は治療が必要です

アルコール依存症は、アルコールに対し精神的、身体的依存をきたす精神疾患で、誰でも発症する可能性があります。

体のアルコール分解能力を超える飲酒が続くと、血液中に常にアルコールが存在する状態になり、それが長期に及ぶと、脳の神経細胞が異常をきたし、機能を十分に果たせなくなります。飲酒を自分自身でコントロールできなくなり、家族や身の回りの人とのトラブルの原因にもなります。

進行性の慢性疾患で、たとえ飲酒をやめても、再飲酒すると以前よりも悪化して再発します。治療を受けずに放置すれば、最悪の場合、命を落とすことになりかねないほどに重大な結果につながります。

■治療や断酒で取り戻せるもの

アルコール依存症は、早期発見・早期治療が重要です。専門医による治療を受けながら、自助グループにつながるなどして断酒を継続することで、健康的な生活を取り戻し、社会的信用を回復することができます。家庭の問題の解決にもつながります。

■家族としてできること

家族が飲酒をコントロールすることも困難です。家族で抱え込んでいくと状況は改善せず、問題が長期化

してしまいます。家族だけで悩まず、一日も早く保健所、専門医療機関や自助グループに相談してください。相談は家族だけでも可能で、自助グループの家族会への参加も有効です。

アルコール問題の相談窓口

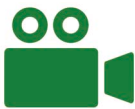
- 保健福祉センター障がい福祉課
☎(260)5667
- 県厚木保健福祉事務所大和センター保健予防課☎(261)2948
- AA関東甲信越セントラルオフィス☎03(5957)3506

■当事者による酒害相談

とき▼第4を除く毎週土曜日午後1時〜3時
ところ▼保健福祉センター
申し込み▼不要

問い合わせ▼(一社)神奈川県断酒連合会大和つくし断酒会(家族会を含む)・神奈川県酒害相談員 井上☎090(4966)3804。

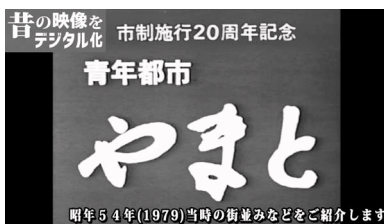
問 保健福祉センター障がい福祉課
この健康係☎(260)5667
FAX(262)0999



「昔の映像をデジタル化」シリーズを配信

☎(260)5314 広報広聴課

「昔の映像をデジタル化」シリーズは、大和市の歴史、民話などを紹介するため、市が過去に制作したVHSテープをデジタルデータ化し、配信中です。昭和、平成の懐かしい大和市の街並み、人々の姿をごらんください。



「昭和54(1979)年の大和市をしてみよう！
～市制施行20周年記念 青年都市 やまと」(30分)



「平成4(1992)年の大和市をしてみよう！
やまとみらい2010」(29分)



「平成6(1994)年の大和市をしてみよう！
～市制施行35周年記念ビデオ 会心のステージ・やまと」(15分)

YouTube
大和市動画
チャンネル



「大和のむかしばなし 姥山伝説」(16分)